

様式第2号（政務活動実施報告書）

30年 11月 28日

井原市議会議長

西田 久志 様

井原市議会議員 坊野 公治

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成30年11月14日（水）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13 メルパルク京都
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	地方議員研究会 議員20年の経験から語る基礎講座 キラリと光る質問原稿の書き方 政策提案質問の事例～私の20年間～
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	日本公共経営研究所代表 宮本 正一
5. 活動内容	別紙

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

「キラリと光る質問原稿の書き方」

講師 宮本正一（日本公共経営研究所代表）

地方議員は2つの議員活動を行う

① 政治活動：政治上の目的をもって行われるすべての行為⇒憲法第21条

*ただし選挙運動にわたる行為は公職選挙法の適用を受ける

② 選挙活動：特定の選挙において、特定の候補者に当選を得又は得しめたるために、選挙人に働きかける直接または間接の一切

地方議員は必要なのか

憲法第93条

地方公共団体には、法律の定めるところにより、その議事機関として議会を設置する。

質問作成の基本をマスター

質問項目をどう決めるか

・テーマを考える

- ① 自身のプロフィールを活かす→自身の肩書きで差別化する
- ② 興味ある分野を→自身のテンションを継続できる
- ③ 緊急性のある分野の問題提起→突発的に起こった課題等

・優先順位を考える

- ① 選挙出馬時の公約
- ② 調査結果の集大成
- ③ 選挙出馬前の確認

→総合計画、まち・ひと・しごと戦略チェック

理想的な質問とは

・質問とは

- ① 市町村の行財政全般にわたって、執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求めるものである。
- ② ・政策提案型
 - ・課題追求型
 - ・自己主張型

・質問の範囲

- ① ・その市町村の行財政全般である。
 - ・具体的には、自治事務、法定受託事務であることを問わず、市町村が処理する事務一切である。
- ② ・一部事務組合等は参加市町村とは別人格、市町村議会として直接関与は認められていない。
 - ・本会議で執行部からの定例的報告を全員協議会で行うなどの手法可能。

質問の効果

- ・ただ単に執行機関の所信をただしたり、事実関係を明らかにするだけにとどまるものでは決してない。
- ・所信をただすことによって、執行機関の政治姿勢を明らかにし、それに対する政治責任を明らかにしたり、結果としては、現行の政策を変更、是正させあるいは新規の政策を採用させるなどの目的と効果がある。

質問の掟

- ・理事者との関係を決定する→WITH か VS
- ・結論の設定をしておく→ふたを開けるまでは NG

博士論文的原稿の作り方

- ・博士論文と比較してみると

背景 仮説 検証 結論

⇒文字数ではなく結論重視

背景 幹の設定 項目抽出 質問

⇒「原稿の木」で整理

質問の取り扱い

1) 質問通告

- ・質問は、議題と関係なく行財政全般にわたる議員主導による政策論議であるから、質問する議員も、受ける執行機関もともに十分な準備が必要
- ・議員としては、質問の構成を練り理論構成をしてその要旨を議長に通告して質問の原稿を作る
- ・一方、議長は質問要旨を理解して質問と答弁がよくかみ合うように議事進行する義務があるので、通告内容には具体性が必要

2) 質問要領

- ・質問は、議長の許可を得て行うもので、通告した質問の内容が市町村行政に全く関係ないものは許されない。また、大所高所からの政策を建設的立場で、簡明で次元の高い質問を展開するべき。

質問作成までの基本手順

- ・現場主義を徹底する⇒地域有力者、ミステリーショッパー
- ・担当課とまず協議する⇒担当課長、係長
- ・先進地への視察⇒名物担当者

政策提案質問の事例

事例1 ○ 生活保護の不正受給対策

背景：市民の多くから生活保護者の素行について苦情が多かった

行動：厚生常任委員会で質問⇒市民相談ベース

結果：特設ホットラインを設置することに成功

成功ポイント：市長選挙の改選前の予算議会だった

事例2 ○ 小学校での英語村授業

背景：学校で習得した英語を実践できる場所がなかった

行動：一般質問にて質問・提案⇒自身の経験ベース

結果：市立教育研修センターに希望する中学生が利用可能

成功ポイント：予算の割に大きい話題性

事例3 ○ 高齢者・障害者の戸別ごみ収集

背景：高齢者・障害者の方のごみステーションへの排出が困難

行動：一般質問にて質問・提案⇒障害者団体の陳情ベース

結果：「寝屋川市ふれあい訪問収集」として実現

成功ポイント：クリーン業務課にいた士気の高い職員

事例4 ○ 英語検定3級受験料補助

背景：市が英語教育を重点政策としていた

行動：一般質問にて質問・提案及び教育長との協議

結果：中学校在学時に検定料一部を補助、現在は小学生にも

成功ポイント：教育長が英語教育について相当前向き

事例 5 ○ 地域協働協議会の創設

背景：地域から相当細かい予算要望がでる

行動：自治会長等地域関係者との懇話会

結果：中学校単位で地域協働協議会という組織を創設、予算分配

成功ポイント：福井県越前市等先行事例がすでに存在した

事例 6 ○ 自治経営推進室の設置

背景：市役所内に民間企業の厳しさが求められる苦情が多発

行動：一般質問にて質問・提案及び理事者懇談会にて要望

結果：自治経営推進室長（課長級）を外部から公募

成功ポイント：当時市長が民間企業出身であった

事例 7 ○ 補助金検討委員会の設置

背景：効果の薄いと思われる補助金が儀礼的に予算化されていた

行動：一般質問にて質問・提案及び副市長との政策設計

結果：外部委員で構成する補助金検討委員会の設置

成功のポイント：市役所と全く関係のない外部委員 5 人を選任（公認会計士、元役所理事、NPO 理事長、大学教授、経営コンサルタント）

事例 8 ×⇒○ 議員定数削減

背景：近隣市と比較して議員が多いという声が多かった

行動：新しい会派を結成、市内全域でタウンミーティングを開催

結果：実質的な交渉なしで僅差で条例改正否決

成功ポイント：改選前だと相当な駆け引きが求められたが、改選後落ち着いた根回しにより条例改正可決

事例 9 × 春の花火大会開催

背景：多くの市民から寄せられる一時開催していた花火大会の再開

行動：一般質問にて質問・提案及び会派による予算要望

結果：予算上の問題により実現せず

不成功のポイント：大規模イベントは、警察との緊密な関係必要

事例 10 × 新しいゆるキャラ育成

背景：市の知名度を上げる必要性があった

行動：一般質問にて質問・提案及び市長との懇談会にて要望

結果：全庁的な支持得られず

不成功のポイント：市のシンボリックなキャラクター等の提案は首長権限

(所感)

質問するにおいては、下記に記した事に留意してすすめる。

1. 自分の得意分野を確立し、政治生命をかけて取り組む事例をもつ。
2. 現場主義を徹底し、情報収集に努める。
3. 質問する背景調査、現状把握、目指すところを明確にする。
4. 一つのテーマに対して各議員に対する答弁を把握する。
5. 1年間を通して各議会で質問する内容を考え、情報収集、視察研修を行う。